

CON-TECH

ひょうご

10号
Jan.2001

事業レポート

“みち”をつくり、そだて、まもる

川の恵みを活かした道の駅を 地域が生き生きと運営



特集

(財)兵庫県建設技術センターの研修事業
行政の技術力の向上を目指して

クローズ・アップ

技術講習会へのお誘い

舗装に関する講習会を紹介します

主要地方道香住村岡線の道の駅「あゆの里 矢田川」は、田舎の伝統的な木造家屋をイメージした外観で、周囲の山々と調和している

CON-TECHひょうご

CON-TECHひょうご 第10号 2001年(平成13年)1月1日発行(年3回発行) 第4巻第1号 通巻10号
発行人(財)兵庫県建設技術センター TEL:078-272-4200 FAX:078-272-4207
〒651-0085 神戸市中央区八幡通3-2-5 IN東洋ビル4F
編集協力(株)神戸新聞総合出版センター

建設技術知識



10

資源循環型社会に向けて 持続的発展可能な社会

みなさんは普段、何か環境にいいことを心がけていますか？ 頭のすみにはあるんだけど、なかなか行動に移せていないのが実状かもしれませんね。21世紀は『環境の世紀』とも言われています。私たち自身そして子孫のためにも、身近でできることや職場でできることって、どんなことがあるのでしょうか。

地球温暖化や酸性雨など地球環境の劣化、エネルギー資源の枯渇問題は、よくご存じのことと思います。また、廃棄物量の増大と最終処分場の残りの容量が少なくなっていることやダイオキシンなどの問題は切実な社会問題となっています。環境と調和し、持続的な発展が可能な経済社会のために、資源循環型社会システムをつくり上げていくことが急務となっています。

循環型社会は、「兵庫県における建設リサイクル行動計画」において、1.廃棄物の発生抑制、2.再利用の促進、3.適正処分の推進を3つの基本施策としています。(図1)

廃棄物は、一般廃棄物と産業廃棄物に分けられます。年間の排出量は、一般廃棄物が約5千万トン、産業廃棄物はその8倍の約4億トンです。産業廃棄物のうち約2割を建設廃棄物が占めます。ただし、最終処分量ベースでいくと約4割が建設廃棄物となっています。(図2)

通常おこなわれる再利用は、工事現場から持ち出し、再生工場でリサイクルしたものでしたが、工事現場内でも建設汚泥を改良して盛土材料に使用できるようにしたものや工事に伴って伐採した樹木をその場で細かく砕き現地の緑化材料として利用した例など、さまざまな工夫がなされています。

つぎに、身近な職場や家庭でもできることがあります。すでに実施されているところもあると思いますが、物品などを購入する際、環境負荷の小さいものを優先的に購入するグリーン購入です。資源循環型社会の中でとりわけ、そういった消費の側からの需要の高まりが循環の『環』をつくり出す重要なファクターです。

日本には「水に流す」という言葉がありますね。人間関係を円滑にするためにはそれらも必要ですが、水に流せばすべて終わりという考え方は、循環型社会をつくっていく

上では捨てなくてはならない概念です。自分自身の健康に気を遣うように、人類の母体「宇宙船地球号」のメンテナンスにも十分愛情を注がなくてはなりません。

(図1) 廃棄物処理の3つの基本施策



(図2) 年間の排出量



みみより情報

当センターでは、『アドバイス制度』を設けております。今回のテーマである環境にやさしい工法の紹介など、建設技術に関する困ったことや悩みのことがありましたら、どうぞお気軽にご相談ください。

＜ご連絡先＞

TEL (078)272-4203 技術企画部 市町業務課
TEL (078)272-4204～4206 建設技術部 各課
ホームページからもご相談を受け付けています



兵庫県建設技術センター
Hyogo Construction Technology Center

〒651-0085 神戸市中央区八幡通3-2-5 (IN東洋ビル4F)

TEL : 078-272-4200 E-mail : kengi@hyogo-ctc.or.jp
FAX : 078-272-4207 URL : http://www.hyogo-ctc.or.jp

阪神事業所 〒662-0857 西宮市中前田町1-25 TEL.0798-34-2275 FAX.0798-34-2285

播磨事業所 〒670-0962 姫路市南駅前町124 TEL.0792-81-3377 FAX.0792-81-3388

但馬事業所 〒668-0055 豊岡市昭和町2-56 TEL.0796-29-3031 FAX.0796-29-3073

丹波事業所 〒669-3309 水上郡柏原町柏原1521 TEL.0795-73-3750 FAX.0795-73-3660

淡路事業所 〒656-0022 洲本市海岸通1-11-1 TEL.0799-25-5150 FAX.0799-25-5170



(財)兵庫県建設技術センターの英語表記である「HYOGO CONSTRUCTION TECHNOLOGY CENTER」の頭文字を組み合わせたとともに、皆様方相互(CON)の建設技術(TECH)の交流の場づくりを担いたいとの思いから名付けました。

編集後記

各市町を順次取材させていただく「事業レポート」では、雪のシーズンである今回、県の北西部を初めて取り上げました。また、センターからのお知らせコーナーでは、研修事業を特集し、研修や講習会それぞれの特色と工夫をご説明しています。参加をご検討いただければ幸いです。最後になりましたが、本誌の発行にあたり多大のご協力をいただきました皆様に深く感謝いたします。これからもよろしく願いたします。

“みち”をつくり、そだて、まもる 川の恵みを活かした道の駅を 地域が生き生きと運営

美方郡村岡町（兵庫県浜坂土木事務所管内）

村岡町の北部「射添地区」に、地域活性化の拠点となる道の駅「あゆの里 矢田川」が誕生しました。川の幸が味わえる食堂や地域の特産品売り場、県道の休憩所のほか、その周囲には地域の資源である矢田川の水辺へと続く公園がつくられています。

村岡町射添地区のうち、山あいの下射添^{おおたな}としては念願の交流拠点。地域の意見を取り入れた施設で、運営組織として設立された大平会には、生きがいを求めて多くの会員が集まりました。

新たな交流を生み、地域の活力を引き出した道の駅。また、除雪をはじめ、地域の道路の安全を守る人たちの仕事を取材しました。

しんしんと雪が降り続く夜明け前のまちで除雪車が冬の暮らしを守っている

国道9号のループ橋を渡って但馬トンネルを抜けると、そこが美方郡村岡町です。平成6年に全国植樹祭が開催された「瀬川平」の雄大な景色を左手に眺めながら、道は湯舟川に沿って下っていきます。町の中心部を過ぎて、湯舟川が矢田川本川に合流するあたり。ここで主要地方道の香住村岡線が国道9号から分岐し、矢田川に沿って日本海へと延びています。

この香住村岡線が通る射添地区では急峻な山に囲まれ、過疎化が急速に進む中、16集落^{むら}でつくる「射添を考える会」を中心に、活性化の方法を模索してきました。その一つが、矢田川を生かした拠点づくりです。

会の熱意に心惹かれて、村岡町は香住村岡線沿いに、地域の人たちが活動でき、農林漁業の振興拠点となる農林水産物直売所、食材供給施設「あゆの里 矢田川」を山村振興事業で約1億円を投じて建設。平成11年7月にオープンしました。

また、道路管理者である兵庫県浜坂土木事務所は駐車場、休憩施設、トイレを整備。同年8月に村岡町内で3番目の道の駅に登録されました。

町が整備した建物は延べ床面積247㎡の平屋で、屋根の上の走馬灯には鮎の姿が映し出されています。内部は、郷

但馬トンネルを抜けると瀬川平の雄大な眺めが広がる

希望の光 いま輝いて

兵庫県知事

貝原俊氏



黎明を待ちわびる 明石海峡の夜空に
咲き乱れる花火 交錯するレーザーの光は
予午線を彩る 新世紀誕生のページェント
中天に満ちる メッセージは
日本の兵庫から 世界の人々に贈る
永久に平和な地球社会実現への 固い決意

人はみな 歴史の大河に水清さを求め
志常に高く 明日を望み
時代を動かし変えて 夢つづるごとく
二十一世紀の清流に 船乗り出し
五五五万県民 いま初日に誓う
「ここ、豊かな兵庫」の夢 花咲かせるを

ここを一つに 足並みそろえ
軽やかに踏み出す 新しい世紀への第一歩
共に歌う人間讃歌 新春の山野にこだまし
輝く希望の光 ふるさとの町にあまねく燦々

新しい世紀を迎えて

財団法人兵庫建設技術センター

理事長 前田 増夫



二十一世紀の新春を迎え、謹んでお祝いを申し上げます。社会の成熟化に伴い時代環境が大きく変わりつつある今、建設事業は脆弱な国土の下、自然へ挑戦し自然を克服しながら社会資本の整備に邁進してきた時代から、自然との調和や共生を重視する時代へと転換するべきときを迎えています。土砂採取跡地において、緑化技術を駆使して緑を蘇らせ、自然との共生のあり方を世界に発信した淡路花博はその先駆けといえます。

このような社会潮流の変化を見据え、真に必要で良質な社会資本を蓄積していくことが、建設行政の責務となつていきます。職員には、品質の確保、効率的、効果的な事業の推進、透明性の向上のために、技術的な知識、経験に裏打ちされた判断力がますます求められています。

このため、公共事業の発注者支援機関として建設技術センターの果たす役割は、ますます重要になると認識しています。

今後とも、当センターの技術力向上と業務内容の充実に一層努め、多様なニーズに応えてまいりますので、ご理解、ご協力を賜りますとともに、より一層のご活用をお願い申し上げます。

Topics

北但最終処分場が供用開始

北但行政事務組合（豊岡市および近隣5町）は、豊岡市岩井地区において一般廃棄物最終処分場の建設を平成10年11月より進めていましたが、このほど平成12年11月1日に「北但最終処分場」として供用を開始しました。

この処分場は、一般ゴミの焼却残渣および破碎不燃物等を受け



入れるもので、周辺環境を守るため二重の遮水シートおよび活性炭吸着・砂ろ過設備等の高度処理機能を備えています。また埋立容量は135,000m³、浸出水処理能力は93m³/日を有しています。

当センターでは、同組合から設計・積算・工事監理業務を受託し、同事業の円滑な推進をサポートしてきました。

三木市中心部に 県道加古川三田線の本町バイパスが開通

三木市街地の交通混雑の解消と、市庁舎や文化会館、三木山森林公園など公共施設への円滑なアクセスを図るため、兵庫県土木事務所三木出張所が平成4年度に工事着手していた本町バイパス（延長1,380m）が完成し、平成12年10月31日に開通しました。

三木山ゾーンと調和し、文化交流軸として利用されることを願い、両側の歩道には桜の花びらをモチーフにした舗装が施され、電線類も地中化されています。

また、自然環境に配慮し、けもの道の設置や樹木による法面植栽が行われています。

なお、当センターは、交差点改良、歩道橋設置工事等の積算業務を受託しました。

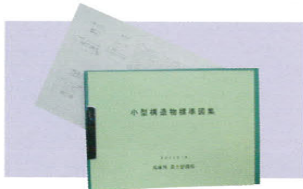


兵庫県県土整備部 監修 『小型構造物標準図集』を発行・販売

当センターでは、兵庫県の監修のもと『小型構造物標準図集』の平成13年1月版を発行し、建設業者や建設コンサルタンツ等にも販売します。

この図集は、設計の簡素化と、構造物の規格化によるコスト削減を図るため兵庫県県土整備部が制定したもので、今回、道路橋示方書と道路土工擁壁工指針の改訂、土木構造物標準設計の改定などを踏まえ、全面改定されました。

擁壁工、側溝・水路工、管渠工、道路付属施設工の4章で構成されています。



『小型構造物標準図集』A3判 2穴ファイル 98ページ 価格3,200円（税込み）

れ16カ所設置し、時々刻々のデータを手務所で入手しています。

その情報をもとに、除雪作業はふつう未明の5時ごろから朝の9時過ぎまで続けられます。村岡町内では香住村岡線が、県が直営で除雪する路線です。昼には通常のパトロールや仕事があるため、雪が降り続けると除雪車のオペレーターには疲労が蓄積します。



拡幅除雪作業

町も4台の除雪車をフル稼働し除雪を行います。機械の入らない狭い道路や手が回らない場所も多く、また、車道から歩道に積み上げられた雪の処理も必要で、町民の協力が欠かせません。

このため、村岡町は集落で小型の除雪ロータリーを動かしてもらえよう、購入費の7割を補助する制度を設けていますが、ここでも高齢化や人手不足の問題に直面しています。

1台でもスリップして道路を塞ぐと、緊急自動車の出動に支障を来します。「冬の但馬に來れる方は、凍結や積雪に対するそれなりの準備をしてお越しいただきたい」というのが加藤所長の願いです。極寒期に入り、県と町、そして町民の雪との格闘はこ



加藤善典 兵庫県浜坂土木事務所長

れから本番を迎えます。

豪雪と並んで、浜坂土木事務所管内に特有の自然現象が地すべりです。

村岡町内には地すべりを起こしやすい北但層群が広く分布し、また、発生の予知も困難なため、地面や斜面に動きがあった所から、農林や土木がそれぞれの持ち場で対応しています。

丸味オノ神地区で平成12年4月に起こった県道湯谷和田線の斜面崩壊は、舗装面と路側擁壁のクラックを道路パトロール隊が発見したものです。すぐに調査をして通行止めし、監視・観測を続けた結果、4日後に約4万m³の土砂が崩れ落ちましたが、人や家屋への被害は起きませんでした。

住民の避難訓練、亀裂が入ってズレの生じた道路の災害復旧、下流の集落を守るための崩壊土砂の土石流対策など、県、町、地域、住民の連携した取り組みが暮らしを守っているのです。



岩槻 健 村岡町長

「研究室」が設けられています。

経営は、射添地区の有志約150人が5万円ずつ出し合って設立した大平会が、町から施設を借りて自主的に行っています。

矢田川でとった天然の鮎や川ガニ、畑で収穫した野菜などを持ち寄り、自分たちの店を盛り立てる大平会。そんな旬の食材を、谷口康彌駅長と8人のご婦人が、季節のメニューに調理しています。

「メンバーは通勤途中に摘んできた野の花を飾ったりと、手づくりのもてなしに喜びを感じています」と谷口駅長。

開業1年目の利用者は4万人を超え、2年目も前年同期を上回りました。

「2つの町で3つもの道があるのは全国でここだけです。競合して大丈夫かとの意



大平公園の芝生広場にある展望台から眺める矢田川

見もありましたが、平成10年にオープンした「ハチ北」も、「こゝあゆの里」も、行政に頼ることなく地域の人たちが頑張つてくれています」と岩槻健村岡町長。

矢田川と地域の接点として 道の駅に河畔の公園を整備

道の駅を囲むように流れる矢田川。対岸の広葉樹林が川面に映え、浅瀬から深緑色の淵へと流れが変化することあたりに、魚も多く生息しています。

村岡町と県は、矢田川の自然をもっと身近に楽しめるものにしようと、「あゆの里矢田川」の建設に先立ち、その周囲の公園化を進めてきました。

町では、「大平公園」の整備を、地域総合整備事業で平成6年度から実施。町のゴミ焼却場の移転跡地と、県道の線形改良に伴う旧道敷を造成し、約10mの高低差のある地形の中に芝生広場、バーベキュー広場、親水広場を配置しました。キャンプができる

河原まで車で降りられる園路も設けています。

同時に、浜坂土木事務所も、香住村岡線の改築にあたり、平成6年度にマイロード事業の選定を受け、町の整備と連携して修景を行いました。矢田川を渡る大平橋の親柱には鮎のデザインを取り入れたレリーフを設け、路側の擁壁には化粧型枠を用いています。

矢田川との接点として大平公園が整備され、道の駅に多くの人々が集まるようになつて、地域から矢田川の水辺を子供たちが安全に遊べ、大人も楽しめるようにしてほしいとの声があがってきました。平成12年度の春、浜坂土木事務所は大平会などと現地で検討を重ね、河原に水遊びのできるひょうたん型の池をつくることとし、池の工事を行いました。池の深さは、安全性や維持管理を考え試行錯誤しながら決められました。

兵庫県ゆたかな川まつり大会と矢田川まつりが合同開催された平成12年7月30日、池は、アマゴのつかみどりやジマス釣りを楽しむ子どもたちの歓声に包まれました。

「道の駅の和室から見た矢田川の淵は、すばらしい景色でした。ここを何とか巧く利用できないかというその時の印象は、地元の人と一致するものでした。これからも、この池を広くPRして、どんどん利用してほしいと思います」と期待をかける加藤善典

完成したばかりの池で子どもたちがアマゴのつかみどりに大はしゃぎ



道の駅の北側で矢田川に架かる大平橋は、明るい色調の下路式ローゼ折

地域の暮らしを守る 除雪作業と道路パトロール

雪寒地域の道路管理者は、除雪作業や凍結防止剤散布が必要かどうかを判断するため、常に、気温や降雪、路面の状態を把握しておかなければなりません。

浜坂土木事務所では、平成5年度から6年度にかけて、それらの情報収集を機械化。レーザーを利用した「凍結センサー」と超音波式の「積雪センサー」を管内にそれぞ



完成したばかりの池で子どもたちがアマゴのつかみどりに大はしゃぎ

研修会参加者レポート



鋼橋 施工と積算に関する 技術講習会に参加して

兵庫県西宮土木事務所工務第1課
中尾 兼人

私は、大学を卒業して日本道路公団に就職したのですが、3カ月間本社で、概ね午前中は研修、午後は実務という研修期間を経験しました。この研修の中で、道路に関する技術基準の位置づけについて講義がありました。講師曰く、「新人当時この関係が分からずに困った」とのこと。そうなのかな?と思いつつ、4カ月目から現場に赴任し、なるほどと感じたことがあります。

県に入って、このような講義に接する機会がないと疑問に感じながら過ごしてきたのですが、今回の研修で初めて聴くことができました。ただ、外部講師の時間の始めに少し割り込むような感じで講義されたのは残念ではありません。*

土木技術を法律の体系の中で認識することは、非常に重要なことだと思います。

*主催者注釈：当日は冒頭の10分程度、講習会の目的を明確にするため、橋梁に関する技術基準について、根拠法令からひも解き、的確な運用を建設技術センターから呼びかけました。



市町建設事業担当職員 中堅研修に参加して

三木市建設部土木課
藤本 修一

今回の研修は、「建設行政を巡る話題」の中で、コスト縮減や事業評価など実施に向け積極的に取り組まなければいけない課題を、「公共工事における安全管理」、「コンクリート構造物の施工管理」、「構造物設計のポイント」などでは、知っていなければならない事で恥ずかしながら知らなかったことや、解っていても疎かにしていたことなどを再確認でき、いろいろと考えることができ、有意義な研修でした。

新聞やニュースなどに報じられているように、様々な問題があり、建設行政にかかわる者の責任も増大してくると思います。

今後も、いろんな研修に積極的に参加し、このような研修で得た知識を生かして技術力の向上に努めていきたいと思います。



県外研修に参加して

播磨町建設部計画課
堀江 昌伸

私は現在、ため池の浄化も目的とした公園の設計に携わっていますが、池を浄化するためにはどのようにすればいいのか手探りの状態でした。そこへ、今回の研修の中で洪水に対する安全性を確保しながら、良好な生物生態空間、水量、水質を確保することを目的とした全長800mの実験河川や6つの実験池がある自然共生センターの視察があると知り、非常に楽しみにして参加しました。

当日は、渋滞に巻き込まれて自然共生センターの研修時間が短くなり、実験河川や実験池が見学できなかったのが残念でしたが、ビデオで施設の概要を知り、スケールの大きさに驚きました。

翌日の街路の視察では、道づくりの手本ともいえるような民間主導の街路がじっくり視察できて、大変勉強になりました。

最後に、書籍等もありますが、やはり百聞一見にしかずで、実際に自分の目で見ると一番だと思いました。そして、今後もこのような研修があれば是非参加したいと思います。



技術講習会へのお誘い —舗装に関する講習会を紹介します—

講習会の目標

道路工事において最も一般的なアスファルト舗装工を取り上げ、経験の浅い土木技術職員を対象としたカリキュラムとしています。

舗装工の設計から施工までの全体について、発注者に要求される基礎知識と技術の修得を完結させることが目標です。

テキスト

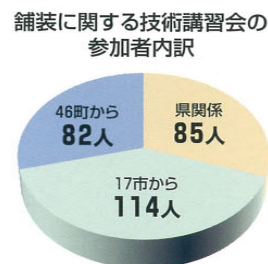
受講者が舗装工事を担当した時、実務に直ぐ役立つものとなるよう、次の点に留意してテキスト(約230ページ)を作成しています。

- 構造設計→材料→配合設計→施工→施工管理のとおり、工事の流れに沿って編集
- アスファルト舗装要綱や土木工事請負必携など、関連する基準書から抜き出したポイントを、詳しい説明を加えながら集大成
- 具体的な説明に心がけ、舗装構造の設計例を紹介するとともに、施工管理については実際に請負業者から提出される材料承認願や品質管理報告書をもとに、その見方や基準値の数値根拠を解説

参加状況

これまで、平成11年度と12年度の2回開催し、県・市・町から合計281人が参加されています。

神戸で開催した第1回目は、遠方の西播磨・但馬地域からの参加が44市町のうち20市町にとどまったため、第2回目は姫路で開催したところ、新たに11市町から参加いただくことができました。



アンケート結果

アンケート集計の結果、「回答者の7割の方が目標を持って参加され、このうち目標達成度75%以上の方は6割に達する」ことがわかりました。研修ニーズにある程度応えることができたものと考えています。

また、テキストについても回答者のほとんどから「講義を受けていない人でも、読めば実務に活用可能」と好評を得ているところです。

アフターケア

講習時間には限りがあるため、質問用紙を受講者に配布し、後日でも舗装に関する質問を受け付けています。

質問には、講師等とも相談し、当センターからお答えしています。

今後の展開

「講義は時間不足」との意見を多くの方からいただいています。



今後は、日常頻繁に使用する項目に絞ることや、基礎編と応用編に分割することなども必要かと考えています。

また、排水性、透水性舗装や舗装補修に関する講習など、内容も拡充していく予定です。

(財)兵庫県建設技術センターの研修事業 —行政の技術力の向上を目指して—

兵庫県建設技術センターは、平成8年の設立当初より公益事業部門の柱として研修事業を位置づけ、研修ニーズの把握に努めながら、建設技術に関する研修の充実に取り組んできました。これまで、延べ3000人を超える方々に参加いただいています。

昨今、自治体職員の技術力低下が内外から指摘されていますが、職場研修(OJT)を十分に行えていないのが現状です。※

このため、職場研修を補完する身近な研修(Off・JT)として当センターの技術研修を利用され、仕事に直結する知識や技術力を修得していただければと考えています。

平成12年度の研修は以下のとおりです。是非、これからご参加下さい。

※平成11年に兵庫県自治研修所が行った「自治研修所の研修に関する所属長アンケート調査」では、職場研修が十分に行われていると回答した県の地方機関は3割にとどまっています。



県土木職 階層別技術研修

県と外郭団体の土木技術職員が、その階層に必要な知識と技術力を修得します。

研 修 名	日 数	対 象	主な内容
採用職員研修	3日	当年度の採用職員	土木職としての基礎知識、積算演習
フォローアップ研修	2日	前年度の採用職員	調査測量～計画設計～積算の一連作業
中級職員研修	1日	概ね6年目の職員	構造物設計できる技術力、事業損失
中堅職員(主任)研修	2日	当年度主任昇格者	事例を持ち寄り問題点と解決策を討議
5級職員研修	2日	地方機関課長補佐	新しい行政課題に関する講義と討議



土木職フォローアップ研修(河川の被災現場を調査測量)

市町職員 階層別技術研修

市町の建設事業担当職員が、その階層に必要な知識と技術力を修得します。これまで、新任研修4回と中堅研修4回に、計500人が参加されました。

研 修 名	日 数	対 象	主な内容
新任研修	2日	経験3年以内	積算、工事監督、土木技術の基礎知識
中堅研修	2日	経験10年程度	調査、設計、施工における専門知識
部・課長研修	1日	管理職等	建設行政の政策形成に役立つ情報



市町職員 新任研修(積算演習ではセンター職員が個別指導)

分野別 技術講習会

県等と市町の担当者が、各分野の専門知識を系統立てて修得します。

分 野	日 数	内 容
舗装	1日	構造の設計、材料、配合設計、施工、施工管理 (次ページに詳報)
PC橋	1日	PCの基本、PC桁橋の計画と施工、製作・架設の積算
鋼橋	1日	計画、製作、輸送と架設、製作・架設の積算、基準改訂
地盤調査	1日	構造物基礎設計に必要な調査(直接基礎編、杭基礎編)、調査結果の見方
道路計画	1日	道路構造令、計画ノウハウ、設計演習、計画時の留意点



市町職員 中堅研修(コンクリート工では施工計画が重要)

現場研修

県等と市町の担当者が、計画内容や施工方法に特色ある建設事業と取り組みを学びます。

研 修 名	日 数	内 容
現場研修会	1日、年2回	県内の特色ある事例を中心に現場研修 ※
県外研修	1泊2日	先進的な事例を県外まで範囲を広げて視察

※ 兵庫県建設技術協会と共催



現場研修(SRC構造の橋脚施工)

研修のご案内

開催日の約1カ月前に、文書で各所属(県)、各市町にご案内しています。

また、兵庫県建設技術センターのホームページに「研修案内」のサイトを設け、参加者募集や開催予定などの研修情報を掲載しています。

〔URL〕<http://www.hyogo-ctc.or.jp> お問い合わせは、技術企画部調査企画課(TEL(078)272-4202)へ